



～県大と地域をつなぐ～

この情報紙は、県立広島大学庄原キャンパス（以下「県大」と表記）の学生や教授が、どんなことを行っているのかだけでなく、市内で学生と活動している人たちを紹介し、大学と地域をつなぐことを目的としています。



*タイトルにある「はげら池」は県立広島大学庄原キャンパスにある池の名称です。

学生が学生の困りごとをサポート

ピア・サポート

「ピア・サポート」とは、ピア(仲間・同僚)が学生生活の悩みや困り事をサポートすることで、学生が快適なキャンパスライフを過ごすことを目的に立ち上げられた組織です。この組織は庄原キャンパスだけでなく、広島・三原を含め全てのキャンパスにあり、合同で宮島での清掃や、各キャンパスの課題を話し合う研修会が行われています。

庄原キャンパスのピア・サポーターは現在 11 名で、主な活動は、新入生対象の交流会を開催し、新しい環境への不安を和らげるための活動のほか、校舎案内のリーフレットを作成し配布したりしています。

毎週水曜日の昼休みに学生からの相談等を受け付けており、今年度からは授業の前に質問 BOX を設け、質問や相談を気軽にできる環境に努めています。



なんでも質問を！
「質問 BOX」

他人とのコミュニケーションを円滑にする手法「ジョハリの窓」。ピア・サポーターは、相談を受ける際にこの手法を活用しています。



手作りの「館内マップ」と「キャンパスマップ」



さくらプランニング、七夕まつりに出店

七夕まつり土曜夜市

7月8日(土)、下本町商店街で「七夕まつり土曜夜市」が開かれ、県大のサークル「さくらプランニング」が出店しました。

当日は 15 人のメンバーが参加し、関西風のお好み焼きの上に、花をかたどったハムをトッピングし、その周りにおおさを散らして桜をイメージした「さくら焼き」を販売しました。

子どもでも食べやすい大きさにしたこと、3 回も買いに来てくれた子どもがいるなど、用意していた 100 食はあっという間に完売。学生は自分たちのブースだけでなく綿菓子無料提供ブースや車の交通整理の手伝いも引き受けるなど大活躍の一日でした。

さくらプランニングの波佐聖那さんは、「今後もこうした地域のイベントに参加し、学生ならではの視点から庄原市を盛り上げていきたい」と話していました。

1 枚 100 円の「さくら焼き」→



多くの市民の皆さんに来ていただきました。



～有用作物の研究を地域社会に生かす～入船教授

生命科学科の入船浩平教授は、遺伝子の組換えや遺伝子操作により有用遺伝子を探索、解析し、植物の持つ能力をどう引き出すかを中心とした植物遺伝子工学を専門とされ、次の内容に特化して研究に取り組まれています。

(1) 油料作物によるバイオディーゼルの精製

主に、インドネシアなどの熱帯性気候の地域で栽培されている非食用作物の油料作物ジャトロファ（樹木）の種を作る雌花の樹を遺伝子操作により増やすことにより、実の収穫量を増やし、この実から油を取りバイオディーゼルの活用できないか研究されています。

(2) 植物の香り成分「リモネン」を作る酵素科学の研究

香り成分を作る酵素の遺伝子进行操作し、特に柑橘系フルーツに含まれる“リモネン”をどう合成していけるか研究されています。

(3) ムカデ芝(センチピードグラス)の研究

ムカデ芝は寒い所でも育ち、水田周りの傾斜地等に植えれば雑草の生育を抑えることが期待できるそうです。これは、ムカデ芝は横に伸び、雑草の種子が飛んできて土に届かず、仮に届いたとしても雑草の種子に日が当たらないため、雑草が成長しないからだそうです。

入船教授は、今年度から大学と地域の連携を行う庄原地域連携センター長に就任されました。今後地域のニーズと先生方の研究分野のマッチングをどのように図っていくかが課題であると話されていました。



今年度から地域連携センター長に就任された入船教授。

県大オープンキャンパス開催

県大の研究室、施設を見てみよう！

オープンキャンパスは大学の施設を公開し、大学について知ってもらうためのイベントです。当日は研究室や施設の見学ができるとともに、各学科・コースの学習内容を深く理解してもらうための模擬授業や研究室見学、サークル活動など学生生活を紹介する学生プレゼンテーションが行われます。

月 日：平成 29 年 8 月 5 日（土）

時 間：9 時 30 分～15 時（受付は 9 時以降随時）

場 所：県立広島大学庄原キャンパス（庄原市七塚町 562）

※各プログラムの詳しい時間や内容については、県立広島大学庄原キャンパスの HP をご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/opencampus/opencampus2017-shobara.html>



昨年の研究室見学の様子

編集後記

私も地域と県大をつなぐ業務を行っているので、先生方の研究を地域の方に知ってもらう機会や、逆に地域側の課題を先生方に知ってもらう機会の必要を強く感じています。今後、地域の人に課題を挙げてもらい、その課題を県大の先生と話し合えるような場を創っていかれたらと考えます。



地域おこし協力隊